

## 御影堂

御影堂は、かつては京都御所の中にあった「清涼殿」の材を使用している。その清涼殿は、慶長年間（1596～1615年）には天皇が休息をとり、来訪者を迎え入れる場所として使われていた。仁和寺の御影堂になってからは、祈祷の場として使われるようになり、弘法大師の像がその本尊として祀られるようになった。弘法大師（774～835年）は空海の名で呼ばれた仏僧であり、真言宗の創設者として知られている。朝廷は空海の偉業を称え、弘法大師の称号を授けた。第59代宇多天皇は真言宗の僧侶となり仁和寺初代門跡寛平法皇となった。現在、仁和寺は真言宗の一派である御室派の総本山である。